

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年8月21日

【計算期間】 第16特定期間（自 2018年11月20日 至 2019年5月20日）

【ファンド名】 D I A M グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選
択シリーズ 資源国通貨バスケットコース
D I A M グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選
択シリーズ ブラジルリアルコース
D I A M グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選
択シリーズ 円コース

【発行者名】 アセットマネジメントOne株式会社

【代表者の役職氏名】 取締役社長 菅野 暁

【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内一丁目8番2号

【事務連絡者氏名】 酒井 隆

【連絡場所】 東京都千代田区丸の内一丁目8番2号

【電話番号】 03-6774-5100

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

2019年8月20日付をもって提出した有価証券報告書(以下「原報告書」といいます。)について、第一部 ファンド情報 第1ファンドの状況 1 ファンドの性格 (1)ファンドの目的及び基本的性格の<ファンドの特色>「通貨選択型投資信託の収益/損失に関するご説明」について主要投資対象である「ハイイールド債券」と記載すべきところ一部「ハイブリッド証券」と誤って記載をし、当該誤記載を発見できないまま提出に至りました。つきましてはこれを訂正し、差替えを行うため、本訂正報告書を提出いたします。

2【訂正の内容】

_____の部分は訂正部分を示します。

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

<訂正前>

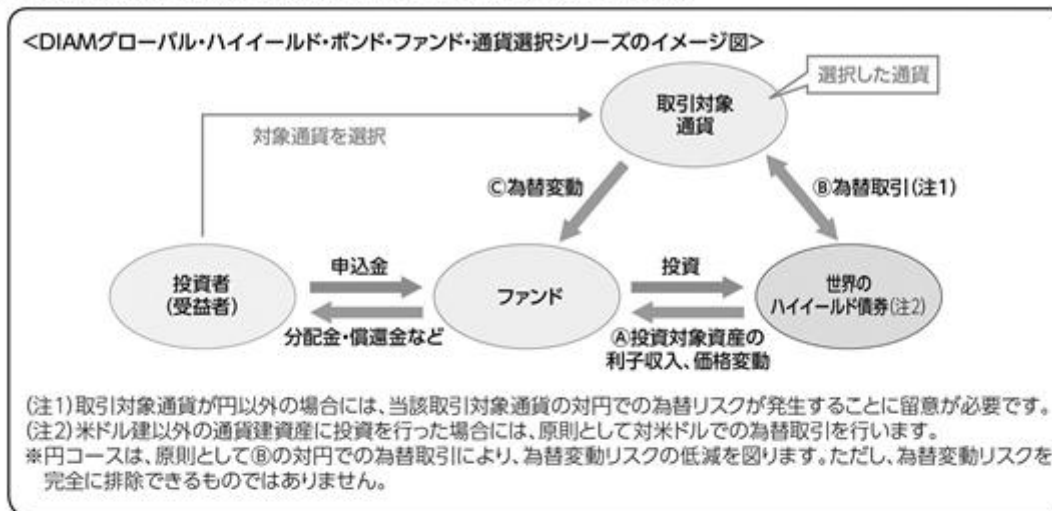
(略)

<ファンドの特色>

(略)

通貨選択型投資信託の収益／損失に関するご説明

- 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる通貨も選択することができるように設計された投資信託です。



- DIAMグローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選択シリーズの収益源としては、以下の3つの要素があげられます。これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。

①投資対象資産による収益(上図A部分)

- ・世界のハイイールド債券が値上がりした場合や利子が支払われた場合は、基準価額の上昇要因となります。
- ・逆に、世界のハイイールド債券が値下がりした場合には、基準価額の下落要因となります。

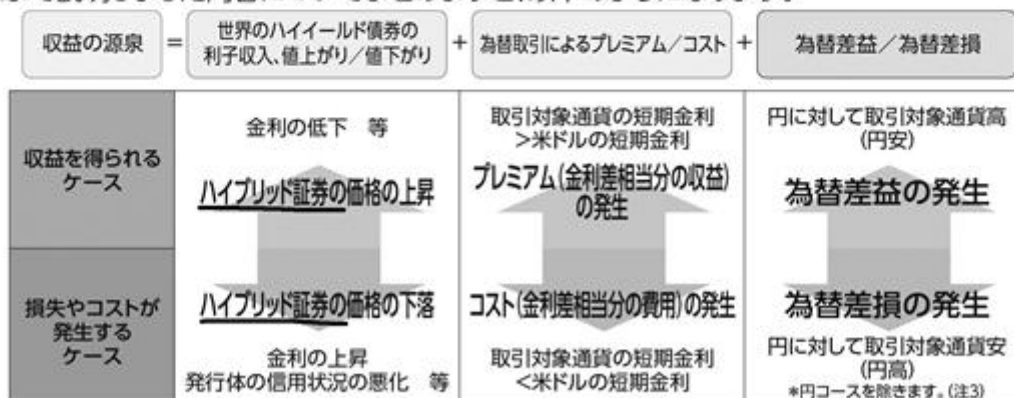
②為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)(上図D部分)

- ・「選択した通貨」の短期金利が、「世界のハイイールド債券の通貨」(米ドル)の短期金利よりも高い場合は、その金利差による「為替取引」によるプレミアム(金利差相当分の収益)が期待できます。
- ・逆に、「選択した通貨」の短期金利のほうが低い場合には、「為替取引」によるコスト(金利差相当分の費用)が生じます。
- ※「選択した通貨」が新興国通貨の場合などは、金利差がそのまま反映されない場合があります。

③為替変動による収益(上図C部分、円コース除く)

- ・上図D部分とは異なり、上図C部分については対円での為替取引を行っていないため、「選択した通貨」の円に対する為替変動の影響を受けることとなります。
- ・「選択した通貨」の対円レートが上昇(円安)した場合は、為替差益を得ることができます。
- ・逆に、「選択した通貨」の対円レートが下落(円高)した場合は、為替差損が発生します。

- これまで説明しました内容についてまとめますと、以下のようになります。



(注3)円コースは、原則としてDの対円での為替取引により、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

※市況動向によっては、上記の通りにならない場合があります。

※上記に加え、各通貨コースは米ドル建以外の通貨建資産に投資を行った場合には、原則として対米ドルでの為替取引を行います。為替リスクを完全に排除できるものではなく、米ドル以外の通貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、上図Dの為替取引とは別に、当該米ドル以外の通貨と米ドルの為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)/コスト(金利差相当分の費用)が発生します。

(略)

<訂正後>

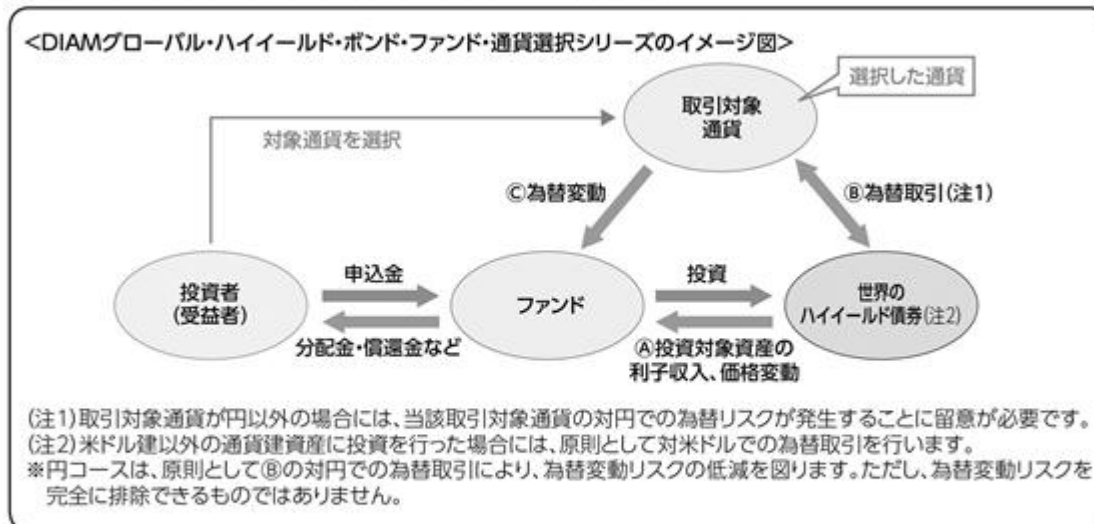
(略)

<ファンドの特色>

(略)

通貨選択型投資信託の収益／損失に関するご説明

- 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる通貨も選択することができるように設計された投資信託です。



- DIAMグローバル・ハイールド・ボンド・ファンド・通貨選択シリーズの収益源としては、以下の3つの要素があげられます。これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。

- ①投資対象資産による収益(上図A部分)
 - 世界のハイールド債券が値上がりした場合や利子が支払われた場合は、基準価額の上昇要因となります。
 - 逆に、世界のハイールド債券が値下がった場合には、基準価額の下落要因となります。
- ②為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)(上図B部分)
 - 「選択した通貨」の短期金利が、「世界のハイールド債券の通貨」(米ドル)の短期金利よりも高い場合は、その金利差による「為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)」が期待できます。
 - 逆に、「選択した通貨」の短期金利のほうが低い場合には、「為替取引によるコスト(金利差相当分の費用)」が生じます。
 - ※「選択した通貨」が新興国通貨の場合などは、金利差がそのまま反映されない場合があります。
- ③為替変動による収益(上図C部分、円コース除く)
 - 上図B部分とは異なり、上図C部分については対円での為替取引を行っていないため、「選択した通貨」の円に対する為替変動の影響を受けることとなります。
 - 「選択した通貨」の対円レートが上昇(円安)した場合は、為替差益を得ることができます。
 - 逆に、「選択した通貨」の対円レートが下落(円高)した場合は、為替差損が発生します。

- これまで説明しました内容についてまとめますと、以下のようになります。

収益の源泉	= 世界のハイールド債券の利子収入、値上がり/値下がり + 為替取引によるプレミアム/コスト + 為替差益/為替差損		
収益を得られるケース	金利の低下 等 ハイールド債券価格の上昇	取引対象通貨の短期金利 > 米ドルの短期金利 プレミアム(金利差相当分の収益)の発生	円に対して取引対象通貨高(円安) 為替差益の発生
損失やコストが発生するケース	金利の上昇 発行体の信用状況の悪化 等 ハイールド債券価格の下落	取引対象通貨の短期金利 < 米ドルの短期金利 コスト(金利差相当分の費用)の発生	円に対して取引対象通貨安(円高) 為替差損の発生 *円コースを除きます。(注3)

(注3)円コースは、原則として②の対円での為替取引により、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

※市況動向によっては、上記の通りにならない場合があります。

※上記に加え、各通貨コースは米ドル建以外の通貨建資産に投資を行った場合には、原則として対米ドルでの為替取引を行います。為替リスクを完全に排除できるものではなく、米ドル以外の通貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、上図Bの為替取引とは別に、当該米ドル以外の通貨と米ドルの為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)/コスト(金利差相当分の費用)が発生します。

(略)

